

[研究ノート] 地域高齢者のスピリチュアリティに影響を  
与える要因  
—出来事、元気づけ・勇気づけからみたテキストマイニング分析—

佐口清美<sup>1</sup>・三澤久恵<sup>1</sup>・畠山玲子<sup>1</sup>・坂東美知代<sup>1</sup>・いとうたけひこ<sup>2</sup>

1 神奈川工科大学看護学部看護学科

2 和光大学心理教育学科

Factors affecting spirituality of the local elderly

-A-text mining analysis from the viewpoint of events, encouragement and empowerment.-

Kiyomi SAGUCHI<sup>1</sup>, Hisae MISAWA<sup>1</sup>, Reiko HATAKEYAMA<sup>1</sup>, Michiyo BANDO<sup>1</sup>, Takehiko ITO<sup>2</sup>

Abstract

[Purpose] Spirituality is important to promote quality of life of the people including the elderly. The purpose of the present paper is to reveal factors affecting spirituality of the local elderly. [Methods] Questionnaire survey was conducted in a city in metropolitan area. Out of 7996, 1578 answers were collected (19.7%). Two items on the big events relating to spirituality and the encouraging or empowering items in the daily life were analyzed by text mining. [Results] The frequent words used for spiritual events were “grandchild”, “death”, and “hospitalization”. The frequent words for encouraging items were “grandchild”, “family”, and “friends”. The word use tendency was common between high and low lever spirituality [Discussion] Frequent words are often related to human relationship. In order to promote spirituality and quality of life of the elders, medical professionals must pay attention to their surrounding human relationship.

Keywords: spirituality, the local elderly, life events, encouragement, empowerment, human relationship

I. はじめに

高齢者人口の増加は 2042 年まで見込まれる。総人口が減少に転じても高齢者率は上昇を続け、2065 年には国民の 2.6 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者となり、4 人に 1 人が 75 歳以上の後期高齢者になることが推計されている (内閣府, 2017)<sup>1)</sup>。

人生 90 年時代を迎えた今日、高齢者の健康のあり方は、「健康寿命」を延伸することである。国は健康寿命を「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定め、これまで、高齢者への健康づくりとして、運動指針、食生活指針などの健康増進と介護予防に力を入れてきた。しかし、長くなった老年期のライフステージを生き抜くためには、健康増進・介護予防のみならず、ウェルビーイングおよび自己実現を目指す健康づくりが求められると三澤(2013)は指摘する<sup>2)</sup>。Erikson は超高齢期の

発達段階を第 9 段階とし、脆弱ではあるけれども失われていく能力をたぐり寄せて統合し、衰えた能力のために完璧をめざさなくとも、それでもなお前進しようとする高齢者を描出した<sup>3)</sup>。また老年学の観点から野尻(2015)は、加齢とともに生活機能軸の増進から生活幸せ軸への増進へと徐々に路線変更することを提案している<sup>4)</sup>。野尻(2015)は生活幸せ軸の心棒にスピリチュアリティを内包させており<sup>5)</sup>、三澤(2013)もまた、高齢者の健康を身体的、精神的、社会的にトータルにバランスの取れた状態に保つためには、スピリチュアリティの影響がある<sup>6)</sup>と説明している。

スピリチュアリティとは、生命力・生きる力であり、QOL の主要な要素で、すべての人の心の深層部にあるとされている(野尻, 2015)<sup>7)</sup>。その他、人生に対する心構え、あるいは態度をつくるという機能をもつ(種村, 2012)<sup>8)</sup>と言われている。残念なことに高齢者のスピリチュアリティの研究は少ない。このようななか、三澤(2013)は高齢者のス

スピリチュアリティを自己の存在の意味が揺らいだときに、自己意識の再構築に向けて、自己を超越した諸次元とのつながりを実感することにより、生きる意味や目的の根拠を支えるものと定義し、また5因子16項目の2次因子モデルから成る「高齢者スピリチュアリティ評定尺度」を開発した<sup>9)</sup>。

しかし、高齢者のスピリチュアリティを左右させる要因は明確になっておらず、スピリチュアリティを高めるためのケアについても検討が求められる。これらに着手することは、スピリチュアリティを焦点とした主体的な健康づくりとして、「健康寿命」の延伸に役立つものとして意義があるものとする。地域高齢者のスピリチュアリティの特徴と関連要因を把握し、スピリチュアリティを焦点とした主体的な健康づくりの具体的な支援の手立てを考えることは重要である。

## II. 研究目的

本研究の目的は、地域高齢者のスピリチュアリティに影響を与える出来事は何かを明らかにすることと、高齢者を元気づけること・勇気づける要因を探ることを通して、スピリチュアリティを促進する主体的な健康づくりのためのケアの示唆を得ることである。

## III. 用語の定義

本研究はスピリチュアリティを「人間の生きることの根源に関わり、自己の意識の根底をなし、人間に普遍的に存在するもの。そして、自己の存在の意味が揺らいだときに、自己意識の再構築に向けて、自己を超越した諸次元とのつながりを実感することにより、生きる意味や目的の根拠を支えるもの<sup>10)</sup>。」と定義する。

## IV. 方法

### 1. 調査対象

調査対象者は、神奈川県A市0地区の自治会に参加している約8,000世帯の65歳以上の高齢者とした。

### 2. 調査内容

調査方法は、無記名自記式アンケート調査とした。アンケート調査票は、神奈川県A市0地区の自治会に参加している約8,000世帯に配布し、回収方法は郵送とした。(回収期間：2016年9月1日～10月1日)

調査内容は、基本属性、高齢者スピリチュアリティ評定尺度、基本的日常生活動作、老研式活動能力指標、精神的自立度尺度、社会的サポート、老年期うつ病評価尺度、生活満足度尺度K、自由記載として、この1年間の大きな出来事、あなたを元気づけたり勇気づけたりするものは何かの問いである。

## 3. 分析方法

本研究の分析対象は、「この1年間の大きな出来事、あなたを元気づけたり勇気づけたりするものは何か」の問いに対する自由記述である。年齢とスピリチュアリティとの特徴を明らかにするため、年齢は前期高齢者と後期高齢者の2群に、高齢者スピリチュアリティ評定尺度得点を高群と低群の2群に分けて、テキストマイニングによる分析を行った。分析に使用したソフトはText Mining Studio ver.6.1.1である。

## 4. 倫理的配慮

神奈川工科大学倫理委員会の承認後(承認番号206725-01)、神奈川県A市0地区の自治会会長に研究の趣旨を説明し、アンケート用紙配布の同意を得た。各世帯には、研究の趣旨と自由意思、匿名性の保持、守秘義務について文書で説明した。

## V. 結果

アンケート用紙配布および回収数は、配布数7,996、回収数1,578、有効回答数1,557、回収率19.7%であった。

### 1. 基本情報

回答者の性別は、男性828人(53.2%)、女性723人(46.4%)、性別不明6人(0.4%)。65歳以上75歳未満の前期高齢者は899人(57.7%)、75歳以上の後期高齢者は658人(42.2%)だった。

0地区におけるスピリチュアリティ尺度得点(16点～80点)の平均値は51.2(±11.7)点であり、男性の平均値は49.9(±11.5)点、女性の平均値は52.8(±11.8)点だった。スピリチュアリティ尺度得点の平均値より、51点以上を高群、51点未満を低群と設定した。

### 2. 「大きな出来事」についてのテキストマイニング結果

#### 2-1. 基本情報

この1年間の大きな出来事の自由記述で回答が得られた平均文字数は13.5文字、延べ単語数は4633、単語種別数は1874単語であった。また、タイプ・トークン比は0.40だった。

#### 2-2. 単語頻度解析(表1)

確認できた大きな出来事上位10位を表1に示す。「孫」に関すること(85)、「死」に関すること(70)、「入院」に関すること(53)、「なし」(51)の順に出現頻度が多かった。

年齢層の内訳では、後期高齢者は「孫」(31)、「死」(30)、「入院」(21)。前期高齢者では「孫」(54)、「死」(40)、「入院」(32)だった。スピリチュアリティ尺度得点の内訳では、高群は「孫」(37)、「死」(34)、「入院」(24)。低群では「孫」(47)、「なし」(37)、「死」(36)の順に頻

度が多かった。

上位 3 位を原文参照した結果、次のことがわかった。

「孫」に関することとは、後期高齢者では孫の進学、孫の成人、孫の結婚などが多く、前期高齢者では孫の誕生が目立った。

「死」に関することとは、年齢問わず近親者（両親・配偶者・兄弟・子ども）の死、友人の死、ペットの死が多かった。「死」に連動するその他のことばに「死別」(40)、「亡くなる」(32) が確認された。「死別」、「亡くなる」で表現する場合、配偶者、両親、兄弟が対象になることがほとんどだった。

「入院」に関することとは、後期高齢者では自分の入院が多く、前期高齢者では配偶者、両親、兄弟、友人など、他者を対象にした入院が多かった。

「入院」の単語から確認することができた。

男性の前期高齢者では、スピリチュアリティ尺度得点高低群ともに「会社」、「仕事」が大きな出来事として捉えられており、その内容は、退職、設立、始めるであった。

女性の後期高齢者でかつスピリチュアリティ尺度得点高群では 18 単語に有意差がみられ、最も特徴語の有意差が多かった。この属性では男性同様に、身近な人の大きな出来事として挙がっており、「なくなる」、「主人」、「別れ」、「友」、「夫」、「死亡」、「友達」の単語より確認できた。

また、女性は年齢層およびスピリチュアリティ尺度得点の群に関係なく「辛い」、「楽しい」、「幸せ」といった感情に関連する表現が確認されている。原文参照の結果「辛い」では、先祖の土地や墓を守り続けることの辛さや身近な人の死を経験することの辛さ、病気の症状に対する辛さが記載されていた。「楽しい」では、友人と旅行できたこと、友人との会話、子ども夫婦との同居、習い事を始めたことに楽しさを得ていた。「幸せ」では、孫の誕生、暮らしそのものができること、この 1 年何も起こらなかったことに対して幸せを感じていることがわかった。

2-4. 対応バブル分析 (図 1)

年齢層とスピリチュアリティ尺度得点を対応バブル分析した結果を図 1 に示す。

スピリチュアリティ尺度得点が高群の後期高齢者は、「妻」、「夫」の「病気」、「死別」、「亡くなる」ことについての出来事が多いのが特徴だった。また、スピリチュアリティ尺度得点が低群の後期高齢者は、出来事について「ない」と答えていることが多かった。

スピリチュアリティ尺度得点が高群低群に関わらず前期高齢者では、「友人」、「結婚」、「誕生」、「母」についての出来事を答えるものが多かった。

また、対応バブル分析における第 1 軸は 57.3%、第 2 軸は 31.9%で、2 軸における累積寄与率は 89.2%であった。

表 1 大きな出来事 単語頻度解析 (年齢層)

順位	単語	品詞	品詞 詳細	後期高 齢者	前期高 齢者	合 計
1	孫	名詞	一般	31	54	85
2	死	名詞	一般	30	40	70
3	入院	名詞	サ変 可能	21	32	53
4	なし	名詞	一般	21	30	51
5	死別	名詞	サ変 可能	25	15	40
6	病気	名詞	サ変 可能	20	19	39
7	人	名詞	一般	16	21	37
8	亡く なる	動詞	一般	14	18	32
9	母	名詞	一般	3	26	29
10	友人	名詞	一般	8	20	28

2-3. 特徴語抽出 (表 2)

性別、年齢層およびスピリチュアリティ尺度得点を特徴語抽出した結果を表 2 に示す。出現回数 3 回以上、上位 20 位と設定した。 $\chi^2$ 検定を行った結果、有意差があった特徴語は男性で 48 語、女性は 46 語確認された。 $(\chi^2 (1) > 3.84 (p < .05))$

男性の後期高齢者でかつスピリチュアリティ尺度得点高群では 14 単語に有意差がみられた。その内「親友」、「逝去」、「妻」、「死亡」には身近な人の死を大きな出来事として挙げられることが確認できた。また、年を重ねてきたことへの実感があることを「とる」、「80 歳」、「元気」、「迎える」の単語より確認することができた。

男性の後期高齢者でかつスピリチュアリティ尺度得点低群では 13 単語に有意差がみられた。特に怪我、病気、などを含める身体の衰えについて、「歩く」、「車」、「骨折」、

表2 大きな出来事 特徴語抽出 (性別・年齢層・スピリチュアリティ尺度得点)

男性				女性											
後期高齢者 高群	後期高齢者 低群	前期高齢者 高群	前期高齢者 低群	後期高齢者 高群	後期高齢者 低群	前期高齢者 高群	前期高齢者 低群								
とる	24.34	スポーツ	16.108	会社	13.592	仕事	17.622	なくなる	20.992	なし	9.433	幸せ	9.761	母	16.292
家内	24.34	入学	12.338	熊本地震	13.592	始める	14.358	主人	16.91	通う	8.545	初孫	9.761	大事	11.386
無し	12.313	不安	8.33	再雇用	13.592	誕生	12.599	別れ	11.933	ガン	6.156	二人目	9.761	見る	7.147
80歳	9.524	歩く	8.33	仕事	6.813	なし	11.239	辛い	10.751	衰え	5.133	いる	6.731	実家	5.683
親友	9.524	車	8.083	親しい	5.026	家族	9.889	生きる	9.219	夫	4.409	家	6.546	出産	5.683
逝去	9.524	やめる	5.964	親	3.852	やめる	8.042	実感	7.513	同居	4.094	4月	5.373	乳ガン	5.683
無い	9.524	愛犬	5.964	子供	3.713	ゴルフ	6.35	送る	7.513	旅行	4.037	93才	5.373	必要	5.683
妻	9.01	仲間	5.964	友人	3.495	持つ	6.35	かかる	5.956	つく	3.266	配偶者	5.373	結婚	5.341
元気	6.777	妻	4.717	悪い	2.994	自治会	6.35	遠い	5.956	わかる+ない	3.266	楽しい	4.98	ショック	5.116
1年	4.617	多い	4.591	趣味	2.994	出す	6.35	思い	5.956	ケガ	3.266	介護	3.902	義姉	5.116
死亡	4.46	義母	4.418	生まれる	2.994	通院	6.35	成人式	5.956	交流	3.266	夫	3.632	人	4.54
ひ孫	4.314	骨折	4.418	妻	2.592	父	6.35	入学+できる	5.956	行く+できる	3.266	母	3.267	亡くなる	3.482
迎える	4.314	入院	4.375	3回	2.508	退職	5.849	墓参り	5.956	実家	3.266	かける	3.181	かける	3.407
大学	4.314	身近	3.342	80才	2.508	胃	3.895	楽しい	5.722	取る	3.266	頑張る	3.181	故郷	3.407
病気	3.699	友人	2.799	つく	2.508	過ごす	3.895	友	5.416	人生	3.266	考える	3.181	合格	3.407
死去	3.073	死亡	2.719	やる	2.508	死	2.858	夫	4.457	体調	3.266	出来事	3.181	住む	3.407
亡くす	3.001	出る	2.559	一年前	2.508	成長	2.491	死亡	4.342	平々凡々	3.266	世話	3.181	世話	3.407
妹	2.425	3回	2.205	会う	2.508	孫+できる	2.491	友達	3.97	変わる	3.266	白内障	3.181	努力	3.407

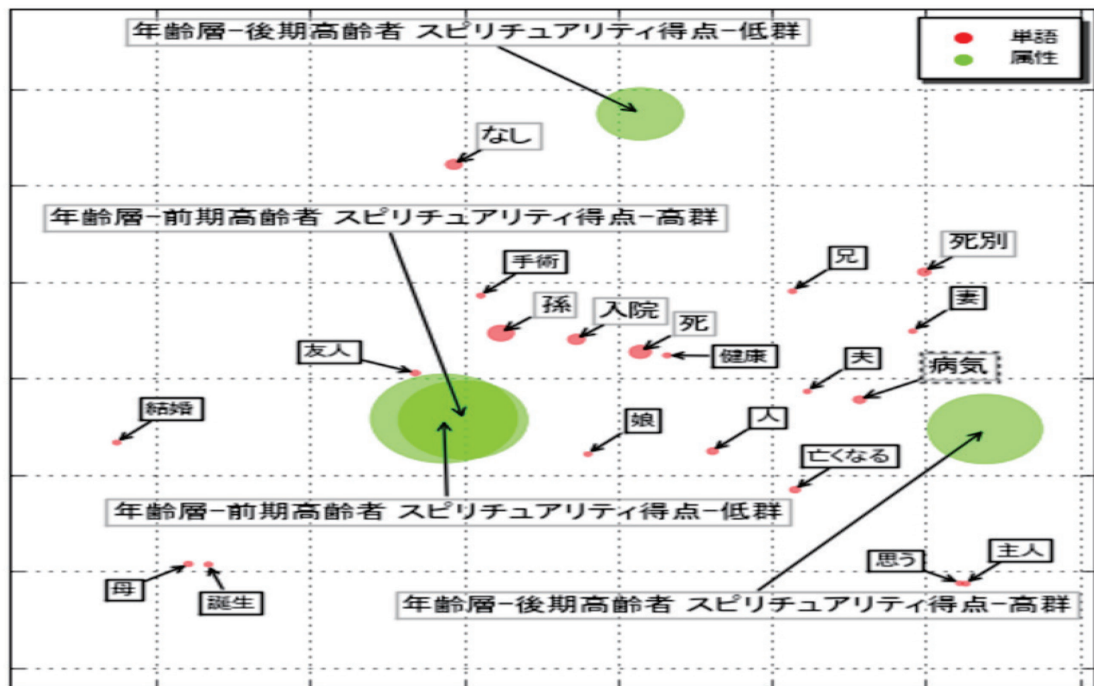


図1 対応バブル分析 (年齢層・スピリチュアリティ尺度得点)

3. 「元気づけ・勇気づけ」のテキストマイニング結果

3-1. 基本情報

元気づけ・勇気づけの自由記述で回答が得られた平均文字数は13.2文字、延べ単語数は4772、単語種別数は1588単語であった。また、タイプ・トークン比は0.33だった。

3-2. 単語頻度解析 (表3, 4) (図2)

確認できた元気づけ・勇気づけとして、上位10位を表

3に示す。「孫」に関すること(139)、「家族」に関すること(127)、「友人」に関すること(88)、「趣味」に関すること(63)の順に出現頻度が多かった。

年齢層の内訳は、後期高齢者では「孫」(42)、「家族」(41)、「友人」(31)、「趣味」(28)。前期高齢者では「孫」(97)、「家族」(86)、「友人」(57)、「趣味」(35)だった。

表3 単語頻度解析 (年齢層)

順位	単語	品詞	品詞 詳細	後期 高齢 者	前期 高齢 者	合計
1	孫	名詞	一般	42	97	139
2	家族	名詞	一般	41	86	127
3	友人	名詞	一般	31	57	88
4	趣味	名詞	一般	28	35	63
5	人	名詞	一般	24	32	56
6	子供	名詞	一般	20	31	51
7	健康	名詞	形容動 詞可能	24	26	50
8	元気	名詞	形容動 詞可能	16	32	48
9	会話	名詞	サ変 可能	15	32	47
10	成長	名詞	サ変 可能	16	29	45

表4 単語頻度解析 (スピリチュアリティ尺度得点)

順位	単語	品詞	品詞 詳細	高群	低群	合計
1	孫	名詞	一般	72	67	139
2	家族	名詞	一般	63	62	127
3	友人	名詞	一般	39	48	88
4	趣味	名詞	一般	40	20	63
5	人	名詞	一般	33	23	56
6	子供	名詞	一般	27	24	51
7	健康	名詞	形容動 詞可能	19	31	50
8	元気	名詞	形容動 詞可能	25	23	48
9	会話	名詞	サ変 可能	21	26	47
10	成長	名詞	サ変 可能	25	20	45

スピリチュアリティ尺度得点の内訳は表4に示す結果となった。高群では「孫」(72)、「家族」(63)、「趣味」(40)、「友人」(39)、「人」(33)の順に頻度が多かった。低群では「孫」(67)、「家族」(62)、「友人」(48)、「健康」(31)、「会話」(26)の順に頻度が多かった。

さらに、自身を元気づけ・勇気づけることとして最も頻度の多かった「孫」を注目語分析した結果を図2に示す。最も多くつながりがあったのは「成長」、次いで「子供」だった。原文参照した結果、成長はそのまま孫の成長をさしており、「子供」は存在そのものをさすものだった。子供の存在が元気づけ・勇気づけになる高齢者は、同時に孫の存在もその要因になっていた。同じように「家族」を注目語分析すると、最も多くつながりがあったのは「友人」、次いで「健康」だった。「友人」は存在そのものをさし、「家族」の存在と同様に元気づけ・勇気づけるものとして確認できた。「友人」の注目語分析では、「家族」、「会話」の順に頻度が多かった。「家族」は先の「友人」の注目語分析結果と同様のことが言え、「会話」は友人との会話をさすものだった。

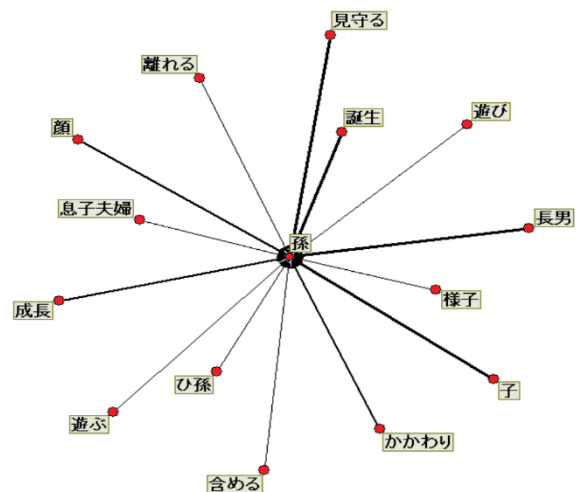


図2 「孫」の注目語分析

3-3. 特徴語抽出 (表5)

性別、年齢層およびスピリチュアリティ尺度得点を特徴語抽出した結果を表5に示す。出現回数3回以上、上位20位と設定した。 $\chi^2$ 検定を行った結果、有意差があった特徴語は男性で56語、女性は63語確認された。 $(\chi^2(1) > 3.84 (p < .05))$

性別、年齢層およびスピリチュアリティ尺度得点高低群において、特徴ある語は様々だった。しかし、「妻(家内、配偶者)」、「夫(主人)」は後期高齢者のスピリチュアリティ尺度得点低群を除く全てにおいて確認され、高齢者にとって配偶者の存在が重要になることが確認できた。

3-4. 対応バブル分析 (図3)

年齢層とスピリチュアリティ尺度得点を対応バブル分析した結果を図3に示す。

年齢およびスピリチュアリティ尺度得点の高低群に関わらず、元気づけ・勇気づけに関わるものに特定のものはなかった。頻度の多いものは、「孫」、「友人」、「家族」、「人」、「子供」、「趣味」だった。

また、対応バブル分析における第1軸は 33.9%、第2軸は 24.6%で、2軸における累積寄与率は 58.5%であった。

表5 特徴語抽出 ((性別・年齢層・スピリチュアリティ尺度得点))

男性						女性							
後期高齢者		後期高齢者		前期高齢者		前期高齢者		後期高齢者		後期高齢者		前期高齢者	
高群		低群		高群		低群		高群		低群		高群	
家内	24.276	健康	13.076	絆	11.744	なし	27.714	コーラス	18.974	お話し	17.989	師	11.633
気	18.295	山	10.989	関わり	11.658	家庭菜園	16.367	先生	18.974	手紙	17.989	周り	11.633
付ける	12.272	受ける	10.989	継続	11.658	ゴルフ	15.801	手芸	12.774	年齢	17.989	親切	10.867
妻	11.922	自然	8.071	趣味	9.755	妻	10.358	もらう	9.116	お茶	12.548	持つ	9.964
スポーツ	10.306	自分自身	8.071	接する	7.823	存在	9.911	ひ孫	7.151	食事会	9.31	信頼	7.291
いる+したい	9.496	動く	8.071	地域	7.517	付き合い	9.071	もつ	7.151	身内	9.31	料理	7.291
含む	9.496	励まし	8.071	知人	6.142	体	7.332	デイサービス	7.151	庭	9.31	ふれあい	6.798
信ずる	9.496	仲間	6.749	含める	5.562	知人	7.332	幸せ	7.151	行く	7.439	主人	5.471
多い	9.496	活動	6.151	家族	5.181	ギター	7.212	笑う	7.151	やさしい	7.174	夫	5.471
動かす	9.496	妻	5.64	妻	5.155	刺激	7.212	職場	7.151	友人達	5.668	喜ぶ	4.788
日本人	9.496	野菜	4.802	参加	4.09	配偶者	5.127	息子夫婦	7.151	家庭菜園	4.555	気持ち	4.788
病気	9.496	交流	4.27	そば	2.042	畑	5.127	娘	6.811	おしゃべり	3.705	心	4.788
勉強	9.496	なし	3.704	まわり	2.042	コミュニケーション	4.887	作る	6.73	TEL	3.582	友	4.788
絆	9.332	ひ孫	3.072	一言	2.042	農作業	4.528	週2回	6.73	温かい	3.582	がんばる	3.921
楽しむ	7.267	グランドゴルフ	3.072	兄弟	2.042	家族	4.446	人生	6.73	教える	3.582	そば	3.921
若い	7.267	デイサービス	3.072	持つ+できる	2.042	生活	3.115	声	6.73	支え	3.582	週1回	3.921
行動	7.25	守る	3.072	自由	2.042	スポーツ	3.003	行く	5.946	人間関係	3.582	出る	3.921
合う	6.216	信ずる	3.072	収穫	2.042	笑顔	3.003	感じる	5.902	続ける	3.582	出会い	3.921
子	3.776	通う	3.072	宗教	2.042	かける	2.979	主人	5.208	大切	3.582	買物	3.921
考える	3.059	登山	3.072	出会い	2.042	ボランティア活動	2.979	思いやり	5.07	優しい	3.582	歩く	3.921
	0	日本人	3.072	身体	2.042	猫	2.979	息子	5.07	離れる	3.582	頼り	3.921

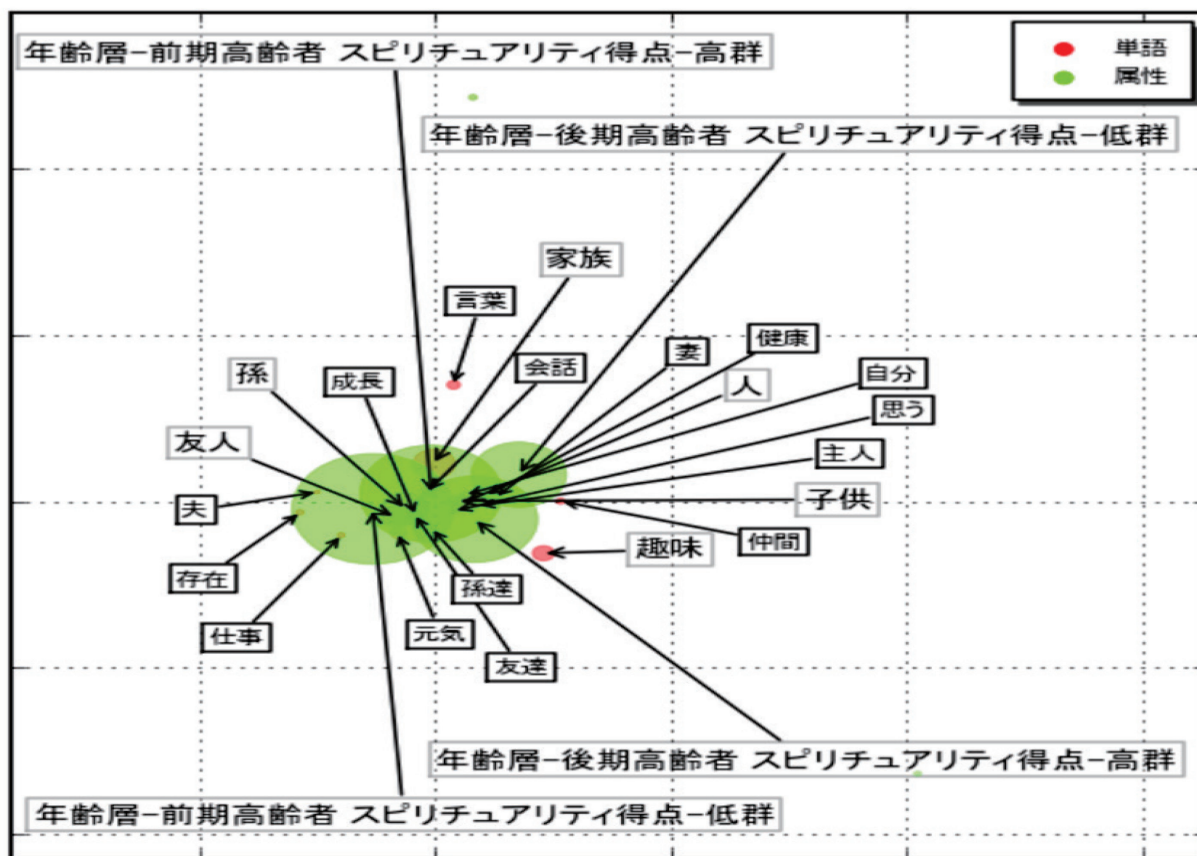


図3 対応バブル分析 (年齢層・スピリチュアリティ尺度得点)

## V. 考察

### 1. スピリチュアリティに関わるライフイベント

神奈川県 A 市 O 地区における、この 1 年間における大きな出来事の詳細より明らかになった高齢者のライフイベントは、「孫」、「死」、「入院」に関することなどだった。これらのライフイベントは夏目ら (1999) や下仲 (2000) の研究でも確認されている<sup>11), 12)</sup>。本研究で確認されたライフイベントは、単語頻度解析 (表 1) および対応バブル分析 (図 1) より、年齢層による頻度の違いはあったが、スピリチュアリティ尺度得点の高低により、大きな影響をうけるものではなかった。高齢者のライフイベントは、その対象者の評価によって、ストレスになる場合もあればそうでない場合もある (下仲, 2000)<sup>13)</sup>。ライフイベントの種類そのものよりも、その人にとって固有のスピリチュアルな意味が問題なのであろう。この問いへの答えは、次の説明で成り立つものと考えられる。

本研究で最も頻度の多かった「孫」については良いライフイベントに、次に頻度が多かった「死」や「入院」については、悪いライフイベントに当てはまる。しかし、スピリチュアリティ尺度得点が高くとも「死」や「病気」に関するものが確認され、逆にスピリチュアリティ尺度得点が低くとも「誕生」や「結婚」に関するものが確認された。以上のことから、高齢者のライフイベントは年齢層によって特徴があるものの、スピリチュアリティにおいては境界が不明瞭であることがわかり、従って、個人が体験するライフイベントをスピリチュアリティの側面からはポジティブな出来事やネガティブな出来事と区別するものではないことが示唆された。

### 2. スピリチュアリティを促進するもの

スピリチュアリティを促進するものになる手がかりとして、本研究では、あなたを元気づけたり勇気づけたりするものは何かの自由記述を対象にした。勇気づけへの問いは Stoll (1979) のスピリチュアルアセスメント<sup>14)</sup>に含まれる事項であり、また元気づけることとは Taylor ら (1995) によるとスピリチュアルケアにおけるケアの核心<sup>15)</sup>とされている。以上のことから、本研究の自由記述をスピリチュアリティを促進する手がかりとして扱った。結果は、単語頻度解析 (表 3, 4) および対応バブル分析 (図 2) より年齢層別にみても、スピリチュアリティ尺度得点別にみても、高齢者を元気づけるもの・勇気づけるものは「孫」、「家族」、「子供」、「友人」の自分にとっての大切な人の存在やつながりに関連するものであることがわかった。加えて高齢者にとりパートナーがいる場合には、「夫」や「妻」といった配偶者の存在が重要になることが明らかになった。

また、人物を象徴とする言語でなくとも、「会話」、「趣味」、「仕事」、「健康」など人との関係を通じなければ遂行されない事象が多く確認された。「会話」は相手がいなけ

れば成立されない行為であり、「趣味」もまたともに楽しむ相手がいて元気づけられることが重要な要素となる。

「仕事」も他者がいることで自身の役割を発揮する場が確保される。「健康」でいることは「会話」、「趣味」、「仕事」をするときなどに必要な条件になる。以上のことより、元気づけるもの・勇気づけるものの自由記述より明らかになったスピリチュアリティを促進するものには、自分にとって大切な人の存在、大切な人からの言葉、人とのつながりなど、人を介したものが重要であることが示唆された。

### 3. 先行のスピリチュアリティ研究との比較

前述の通り、本研究でスピリチュアリティに関わるライフイベントとスピリチュアリティを促進するものに共通する話題は「孫」、「家族」、「友人」など、人との関わりに関連するものであった。

スピリチュアリティは複雑で多次元的な人間経験の一部だと Harold (2008)<sup>16)</sup> は述べている。具体的には、人生の意味や目的、個人が生きる拠り所とする信念や価値といった認知的側面。希望、愛、絆といった経験的かつ感情的側面。宗教、自然とのつながり、芸術などを通して探求する行動的側面がある。本研究の高齢者においても、スピリチュアリティと関連があったものとして、孫の誕生、孫の成長、配偶者の存在、配偶者からのことば、家族の優しさ、家族との会話、家族との旅行、友人との会話、友人と趣味を楽しむなど、経験的側面や行動的側面が多く確認される。本研究では、スピリチュアリティの定義を自己の存在の意味が揺らいだときに、自己意識の再構築に向けて、自己を超越した諸次元とのつながりを実感することにより、生きる意味や目的の根拠を支えるものとした。高齢者にとって、人との関わり、人とのつながりは、生きる意味や目的の根拠を支えるスピリチュアルな経験として重要である。

気をつけなければならないことは、スピリチュアルな経験には善し悪しのような基準がないということである。本研究でもライフイベントによってスピリチュアリティ尺度は得点の高低に影響しなかった。また、スピリチュアリティを促進するものも、尺度得点の高低との関係は言えなかった。岡本 (2014)<sup>17)</sup> は、スピリチュアルな経験とは、特定の個人にとって個別的な意味や価値に関することだと述べている。従って、スピリチュアリティを促進するものは、人との関わりやつながりとして重要な要因であると言えるが、それは一人ひとり異なる個人に特有なものとして扱わなければならない。

## VI. 結論

本研究の目的は、地域高齢者のスピリチュアリティを焦点とした健康づくりのためのケアを検討することである。今回、地域高齢者のスピリチュアリティに影響を与える出来事と高齢者を元気づけること・勇気づけることをテキスト

トマイニングした結果、スピリチュアリティ尺度得点の高群低群における特性は確認できなかった。そのため、ライフイベントの価値や意味、スピリチュアリティを促進するものは、個人に固有のものであることが結論づけられた。以上のことより、スピリチュアリティを焦点とした健康づくりは、各々に異なるものになることが示唆された。ただ、ライフイベントもスピリチュアリティを促進するものも人を介していた点において、人と交わることを健康づくりの考え方の基本軸になることが確認された。

本論文は、分析対象を調査全体の中での 2 項目の自由記述回答に絞ったため、研究プロジェクト全体との関連を総合的に考察できなかったことが研究の限界である。にもかかわらずスピリチュアリティの促進とスピリチュアルケアにおいて周囲の人間関係が重要であることを明らかにした本研究の意義は大きい。今後の課題は本プロジェクトの成果に立脚して、質的・量的なデータに基づく統合的な知見・見解を明らかにしていくことである。

#### 〈文献〉

- 1) 内閣府：平成 29 年度版高齢社会白書，[http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/zenbun/29pdf\\_index.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/zenbun/29pdf_index.html)
- 2) 三澤久恵：尺度開発と尺度を活用したスピリチュアリティ支援の方向性と課題，スピリチュアルケアの実現に向けて，窪寺俊之編，聖学院大学出版会，127-141,2013
- 3) Erikson EH, Erikson JM, 村瀬孝雄(訳), 近藤邦夫(訳)：ライフサイクル, その完結増補版, みすず書房, 2001
- 4) 野尻雅美：余生も楽しく美しく-高齢者の QOL(人生の質)、QOD(死の質)-, マリヨ企画出版, 2015
- 5) 前掲書 4)
- 6) 前掲書 2)
- 7) 前掲書 4)
- 8) 種村健二朗：窪寺俊之監修 スピリチュアルケアの根底にあるもの-第 7 章死ぬ苦しみからの解放とスピリチュアルケア-, 遊戯社, 130-158, 2012
- 9) 三澤久恵：窪寺俊之監修 スピリチュアルケアの根底にあるもの-第 6 章 いまを生きる高齢者のスピリチュアリティとそのケアを求めて 老年看護学の視点から-, 遊戯社, 100-127, 2012
- 10) 前掲書 9)
- 11) 夏目誠, 太田義隆, 野田哲朗ほか：高齢者の社会的再適応評価尺度, ストレス科学, 13 (4), 222-229, 1999
- 12) 下仲順子：高齢期における心理。社会的ストレス, 老年精神医学雑誌, 11 (12), 1339-346, 2000
- 13) 前掲書 12)
- 14) Stoll, R. I: Guidelines for spiritual assessment, American Journal of Nursing, 79, 1574-1577, 1979
- 15) Taylor, E.J., Amenta, M.O., & Higihfield, M.F.: Spiritual

care practices of oncology nurses, Oncology Nursing Forum, 22(1), 31-39, 1995

- 16) Harold G. Koenig/杉岡義彦訳：Medicine, Religion, and Health Where Science and Spirituality Meet/スピリチュアリティは健康をもたらすか 科学的根拠にもとづく医療と宗教の関係, 医学書院(東京), 10-14, 2008/2009
- 17) 岡本拓也：誰も教えてくれなかったスピリチュアルケア, 医学書院(東京), 119-148, 2014